

A photograph of a field with a rainbow in the sky and a bee in flight. The scene is captured in a soft, slightly hazy light, possibly during sunrise or sunset. The foreground shows the dark silhouettes of tall grasses and a single flower stem with a few buds. The background is a bright, hazy sky with a vibrant rainbow arching across it. A small black silhouette of a bee is captured in flight in the center of the frame.

写真の学校入学案内

現代写真研究所

2026年6月開講



大分県中津市

CONTENTS

「モンローの皺・ある城下町の行方」 英 伸三	2
CONTENTS	3
基礎科紹介・在校生の声	4
総合科紹介・在校生の声	5
2026年度・クラス一覧表	6
各クラス紹介	7.8
現研の魅力1	9
現研の魅力2	10
現研の魅力3	11
講師紹介	12～17
講師・生徒たちの写真展・写真集 受賞歴など	18.19
現研の4つの特長	20.21
授業料一覧・申込要項	22
入学申込書・アクセス	23
*現代写真研究所通称「現研」	

「モンローの皺・ある城下町の行方」

現代写真研究所 所長 英 伸三

写真の楽しみは、被写体との出会いのなかから写真の主題を見つけ、撮影を続けながら、ひとつの作品に仕上げていくことにあると思う。私に写真集をつくるきっかけを与えてくれた、ある地方都市の光景で説明する。

歓楽街の雑居ビルの壁にマリリン・モンローの写真が大きく飾られていた。風雨にさらされてフィルムが劣化して顔に白い線が走り、まるで皺のようにみえる。城下町として栄えていたが、続く人口流出でアーケード街に人影はなく、更地になった店舗跡の駐車場ばかりが目立つ。祭りの時だけは踊り子をのせた山車が街をねり歩き、ひとときの賑わいをみせる。モンローの皺のよった写真が、疲弊してゆく地方都市の姿を暗示しているように思われた。写真集（現研出版局刊）はこうした出会いから生まれた。



秋元湖 飯倉豊啓

【基礎科】撮るから創るへ。

第1・3木曜 13:00～15:30

現代はスマートフォンの普及により、写真を撮ったことがない人がほとんどいない時代になりました。そんな中で、「自分だけで撮っているのでは少し物足りない」「SNSには公開しているけれど、仲間と一緒に写真を撮ってみたい」「画面で見ただけではない写真のプリントを体験してみたい」という想いを持っている方、そして、写真に全く触れたことはないけれど、写真を撮ってみたい方。自分の写真世界を発見できる第一歩を、仲間や講師と一緒に踏み出しましょう。

カリキュラム

- 撮影会：撮影をしながら、多くのことを発見し、技術を少しずつ覚えていきます。
- 現像とプリント：展示のための現像とプリントを学びます。
- 合 評：自分の写真表現を仲間や講師との意見交換により、見つけていきます。
- 講 座：担当講師の写真体験など、作品のヒントを他者の写真から学びます。
- 修了展：写真展を自分たちで開催するノウハウを学びながら、発表する楽しさや面白さを体験します。



PHOTO 野田亜希子

VOICE

私が基礎科に入った理由は、知識や技術がゼロからのスタートでも、最終的にはみんなで写真展を経験できるからです。授業が進んで行く中で、わからない事がでてきても、講師が丁寧に教えてくれます。仲間と好きなだけ写真の話しができて、たくさん刺激ももらっています。

(基礎科 野田亜希子)

VOICE

一昨年、地域の合唱組曲「夷隅川」をイメージしたスライドを作った体験から、より基本的な事柄を学びたく、基礎科に申し込みました。ここでは、現像で自由に色調を変えたり、ブラシを使ったりして、絵を描いているような面白さにワクワクする体験がありました。また組み写真の作り方やスライド動画の構成も学びました。今後、自分独自の視点で写真を撮りまわろうと思います。

(基礎科 宮原恵子)



PHOTO 宮原恵子

【総合科】視野を広げ、多様な創作にチャレンジ。

第1・3土曜 10:00～12:30

写真の概念を広げる知識や多様性、高い表現技術など、創作の土台を広げ深さを追求します。プリント表現や組写真研究も大きな柱です。写真展の展示構成、写真集などのページ編集につながっていく研究です。授業は専任講師とともに現研が誇る講師陣があたり、包括的な写真追求ができるカリキュラムです。また、学年末に生徒が主体的に行う修了展は、総合的な写真発表となりタイトルや写真解説を書く訓練も含まれています。修了時にはきっと進化した自分に会うことができるでしょう。

カリキュラム

- 合 評：互いに写真作品を高め合う討議を毎月行う。
- 撮影実習：発見する眼を養う。
- プリント実習：現像ソフト Adobe Lightroom の使い方
- 講 義：写真の力と可能性
- 講 義：組み写真と単写真
- 講 義：壁面構成とページ構成
- 講 義：「テーマ」を見つける
- 講 義：フォトジャーナリズムと写真
- 講 義：写真史 名作を読み解く。
- 写真展鑑賞・体験の写真論など
- 修了展：外部ギャラリーにて自主的な写真展を開催



PHOTO 稲垣智代

VOICE

写真は分からない。
良い写真って？
伝わる写真ってなに？
分からなさ分かるかもしれないと、現研に通うことにした。ところがどっこい、今はますます分からないの森をさまよっています。でも分からないことは面白い。自分の外にあるものだから。講師や仲間へ作品を晒し、言葉という光を当てて初めて見えてくる「私の写真」。講義を受けるたびに形になっていく感覚があります。深く美しいこの森でまだまだ悪戦苦闘してみようと思う日々です。

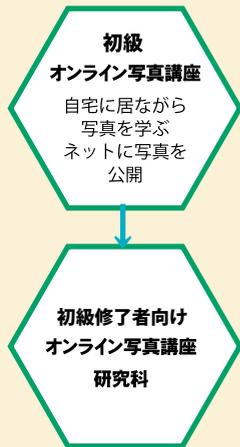
(総合科 稲垣智代)

**学んだことを生かして
写真表現が深くなる**



写真家になるための方法

遠くにも相談できる環境



Basic 基礎科

最初の一步
楽しく学ぶ1年間
可能性∞

ゼロからのスタート

写真仲間と楽しく写真談義

写真でつながる仲間



*授業内容詳細はホームページをごらんください
(<https://www.genken.ac/>)



■英伸三ゼミ 第2金曜 14:00～16:30

魅力ある写真を

写真は、テーマを持つことにより、撮影技術が飛躍的に上達し、写真の内容が豊かになる。撮ること、写真を見ること、見せることを繰り返すことによって、写真の面白さと、写真で何を伝えるかという、写真家の役割を修得していく。これがゼミの方針です。

■飯塚明夫ゼミ 第1・3木曜 17:00～19:30

撮影は楽しく、テーマは深く

ゼミ生本人が気づいていない感性の可能性を見つけ、それを共に育て上げて写真展・写真集に結実させることが私の役割です。撮影対象に制限はありません。関心のあるものを楽しみながら撮ってください。撮影にかけた時間と熱量は必ずテーマを深く強くし、良い結果に繋がります。

■入江進ゼミ 第1火曜 14:00～16:30

毎年春にグループ展「共生」を開催

テーマに沿った映像制作を通して、取材の仕方や文章表現など、さまざまなスキルを学んできました。その経験を活かして、一人ひとりが自分らしい個性を磨き、表現力を高めています。さらに、小冊子を作成することで、構成要素を学ぶ貴重な機会にもなっています。撮影自体は個々の活動ですが、経験を共有し合いながら、みんなで作品作りを楽しんでいます。

■土曜ゼミ 第1・3土曜 14:00～16:30

写真表現の多様性を追究

様々な人生経験を積んだ人々が集うゼミです。それぞれの個性的感性を認め合い、新しい表現の可能性・多様性を追求し、チャレンジしています。一枚の写真をもとに、熱く語り合う輪に皆さんも参加しませんか。
(担当: 飯塚・五味)

■尾辻弥寿雄ゼミ 第2・4木曜 12:30～15:00

「視点自在」個人の感性がより自由に発揮される場所

人間生活すべてに興味と関心を持ち、そこに写真が寄り添ったときオリジナリティー溢れる写真が誕生します。あらゆることが被写体となり、だめというものはありません。まさに視点自在です。ゼミ生の個性を基調に常に新しい発見を模索し、個展や写真集など作品発表を視野に入れた授業を展開しています。

■金井紀光ゼミ 第2・4日曜 14:00～16:30

それぞれが自分のテーマを見つけ、個展開催を目指します

ゼミ生と講師が共通のテーマで一緒に撮影実習を行い、共同制作によりグループ写真展を行うこともあります。例えば「止まったままの時計 - フクシマ」(2020年視点賞受賞、2021年写真展)などです。

■足立君江ゼミ 第3火曜 13:30～16:00

いつの時代も写真を撮り続けることが大事です

街に出て撮影する時間も作り、写真を読み解く力を身につける楽しさを学びます。2枚組、3枚組と組写真にすることで、自己表現を数ページの写真集にしていきます。合評を繰り返す中でこそできる、写真の持つ面白さを発見していきましょう。その中から必要なテーマも探せます。誰もが持っている自分だけの感じ方や撮り方で表現に深みが出て楽しくなります。一歩ずつ前に進んでいきましょう。

■宮本遼ゼミ 第2・4土曜 10:00～12:30

自分と向き合い個性を大切に、作品を磨いていきます

写真以外のものから得られる発想を大切に、発見と想像を繰り返していきます。自分の想いが形になっていく面白さや嬉しさを少しずつで良いので体験していただけたらうれしいです。

■フォトジャーナリズム専科

第3水曜 17:30～20:00

日本が揺れています。地震・津波だけではなく、万博はほんとに必要なか。南西諸島、ウラ金、武器輸出、消える伝統、景観、子ども、若者、年金問題。新聞を見るだけで頭がクラクラします。ヒトも社会も美しい日本も写真であればこそ記録・表現ができます。ワンランク上の写真へチャレンジです。(担当:中村梧郎)

■デジタルカメラ基礎講座

月2回/全8回
15:00～17:30 18:30～21:00

復習を重ねながら進める授業は初心者の方でも安心して続けられます。だから、初心者大歓迎です。デジタルカメラの基本設定、Lightroom ClassicでRAW現像(レタッチ)の基礎の基礎を学び、最後にA3ノビのプリントを完成させます。

■Lightroom 専科

月2回/全8回
15:00～17:30 18:30～21:00

デジタルカメラ基礎講座修了の方を対象にしたRAW現像の中級レベルの履修とライブラリーによる写真管理の習熟を目的とした講座です。

■デジタル研究科

月1回/1年
15:00～17:30 18:30～21:00

Lightroom 専科修了生を対象に、デジタルカメラの応用を中心とし、RAW現像ソフトを活用した高品質なプリント制作やデジタルデータを活用した作品制作について学びます。

■山本やす子写真教室 「すき・すごい」の感覚を大切に!!

第3金曜 14:00～16:30

各自の思いに向き合い撮影実習の体験を通し面白さや基礎的な知識・写真の整理の仕方などを覚えましょう。「大層な写真は撮れない」「笑える写真」「普通の写真」と嘆く事なかれ!選び方・見せ方など合評しあい写真の面白さを実感体得し自分らしい写真にまとめましょう。

■日曜撮影専科 現場が写真を鍛える

第1・3日曜 13:00～17:00

現場撮影と写真の編集を交互に繰り返して、テーマを発見し、写真を8～16ページのphotobookにすることで、写真のテーマを具体化させ、確実な作品作りをするクラスです。写真作品に結実させるのを養います。

■on-line ワークショップ写真講座(初級)

第2・4木曜(全10回) 18:30～20:30

オンライン会議ソフトを使用して自宅に居ながら受講が可能。デジタル写真の活用術や、スライド組写真の見せ方など、写真の新しい表現方法を習得できます。修了者は研究科にステップアップ。



アットホームな雰囲気の中で スキルアップ

撮影時に疑問に思ったことや、些細な悩みも授業で解決!
講師が優しく解説します。



ストロボの設定に不安があります…。

大丈夫!
まずはそのボタンを押して…。

カメラの設定から丁寧に指導します。

ストロボ実習(基礎科)より



大きなプリントで 写真の迫力が 倍増 します。



撮影したデータの画像処理を行い、大判プリントをします。

表現の可能性を引き出す対話型合評

経験豊富な講師やクラスメイトとの「対話型合評」の中から、自分が気づいていない「新たな方向性」を発見することも。授業中のコミュニケーションは、写真表現の栄養源です。



山伏のポートレートを撮ったんです…。

それじゃ、その山伏が大切にしている物を撮って見たら…。

なるほど！「モノ」のポートレートですね。



撮影者の被写体への共感が伝わってきますね！

これすごくいいよ。

あら！そうですか。自分では気がつきませんでした。

仲間と目指す修了展・ゼミ展

年に一度の修了展はグループ展。一年間の撮影の成果を、クラスメイトと力を合わせて写真ギャラリーなどで展示します。写真は大きくプリントすることで、新たな魅力を発揮します。



どうですか。私の力作。

これ！これ！これがいいね。



展示レイアウトにひと工夫



ゼミ展のプレゼンテーション



妖艶

映像世界の探究を目指す

写真を撮ることで、今まで気づかなかったものが見えたり、物事の本質を知る手がかりを得たりして、新しい世界がひらけるのを感じるものです。撮影したものをプリントして写真として見ると、その場ではあまり重要と思わなかったものが状況の中で大きな意味を持っていることに気づいたりします。写真を撮る行為で創造の喜びを感じ、映像世界を探究することで事物に対する思考を活性化すれば、人生はより潤いのあるものになるのではないのでしょうか。

英 伸三 Shinzo Hanabusa

1936年千葉市生まれ。農村問題などを中心に工場労働者、教育現場などを通じて日本社会の姿を追いつける。写真展、写真集多数。近著「老街茶館」

英ゼミ 第2金曜 14:00～16:30
日曜撮影専科 第1・3日曜 13:00～16:30



colors

「撮る」「選ぶ」「見せる」 という写真の醍醐味

自由な発想と感覚を、写真で表現する喜びを大いに体感しましょう。「撮る」「選ぶ」「見せる」という写真の醍醐味が授業に詰まっています。すべての事柄に関心をもち、そこにカメラが向けられたとき、自然と独りよがりの枠が崩れだし新しい発見が生まれます。現状打破し、次のステップを模索している皆様、ぜひ総合科・尾辻ゼミを訪ねてください。期待に応える1年間が待っています。

尾辻 弥寿雄 Yasuo Otsuji

1945年長崎市生まれ。横浜市在住。2000年通信社写真部を経てフリーカメラマン。個展・写真展多数

尾辻ゼミ 第2・4木曜 12:30～15:00
総合科 第1・3土曜 10:00～12:30



NY911 テロ跡地のビル

写真は、記録と表現にとって 最高のメディア

美しいものに出会います。その素晴らしさを誰かに伝えようと思っても、言葉では表現できません。猛暑、豪雨、子ども、老人、苦しみ、喜び、私たちの周りには様々な社会現象が起きています。それらの姿をシャープに伝えることができるのも写真です。記録と表現にとっての最高のメディア。それを使いこなせるようになればパワー倍増です。チャレンジしましょう。

中村 悟郎 Goro Nakamura

フォトジャーナリスト。元岐阜大学教授。ベトナム戦争と枯葉剤問題でMAGNUM招待展。伊奈信男賞

フォトジャーナリズム専科 第3水曜 17:30～20:00



カンボジアの市場で。村から野菜を売りに来た母子です。狭く混雑する市場で安心して母親が面倒を見られる場所なのです。

自分の撮った写真を 一步踏み込んで見てみよう

世の中に写真が氾濫している中で、自分の撮った写真を一步踏み込んで見てみよう。組写真にすることで、写真の選び方、見せ方で自己表現を確実なものにしていきます。もう一つ心がけている事は、被写体に対する謙虚な姿勢です。海外でも東京の街でも被写体から教えていただくことが多く、理解する楽しさも加わり、目標も出てきて撮影が楽しくなります。

足立 君江 Kimie Adachi

安曇野を中心に撮影しながら、2000年より18年間カンボジアを撮影/写真雑誌などのグラビアや婦人向け雑誌に原稿を寄稿。2018年第2回笹本恒子写真賞

足立ゼミ 第3火曜 13:30～16:00



インバウンドの風景（隅田川クロニクルシリーズより）

飯塚ゼミ 第1・3木曜 17:00～19:30
土曜ゼミ 第1・3土曜 14:00～16:30

写真表現は 撮影者の数だけある

写真表現は近年ますます進化し、撮影する動機も多様化しています。「被写体が綺麗だから、絵になるから撮る」という旧来の発想ではなく、新たな写真表現のコンセプトを模索しながら撮影・構成・発表を行っています。写真表現は撮影者の数だけあります。それはつまり「一人ひとりが自分の表現の方法を創る」ということです。

飯塚 明夫 Akio Iizuka

青年海外協力隊メンバーとしてザンビアで活動。JRP 会員、JPS 会員、日本写真芸術専門学校講師
アフリカ取材がライフワーク。

ナショナルジオグラフィック写真賞優秀賞受賞

* JRP (日本リアリズム写真集団)・JPS (日本写真家協会)



霧幻のブナ森（奥志賀）

入江ゼミ 第1火曜 14:00～16:30
デジタル基礎講座（全8回）／Lightroom 専科（全8回）
デジタル研究科（月1回・全12回） 15:00～17:30
18:30～21:00

無限の可能性を楽しもう

20代前半、カメラ初心者だった私は、現研の門をたたき、新しい世界へ一歩踏み出しました。授業についていけないか不安でしたが、年齢も職業も異なるクラスメイトとの交流を通じて、写真の楽しさや奥深さに夢中に。講師となった今も、新たな発見や喜びが尽きず、写真は私の「生きがい」です。あなたも一歩踏み出し、自分だけの扉を開けてみませんか？

写真の世界には、無限の可能性が広がっています。一緒にその魅力を楽しみましょう！

入江 進 Susumu Irie

JRP 会員、JPS 会員。著書「デジタル一眼レフではじめる新風景撮影術」(学習研究社)。デジタルカメラ各誌に執筆。



光る山

金井ゼミ 第2・4日曜 14:00～16:30

引き出し豊富な講師陣に注目

過去の名作に学ぶことに、いま私は、興味があります。最近の写真に感銘を受けないからかもしれません。撮りたいものが見つからないと悩んでいる人、マンネリ化に陥っている人、そういうときこそ名作に触れましょう。“現研”にはそういった写真集が多くあります。また、“現研”のベテラン講師は、作品はもとより、長年の写真活動で培ったノウハウの蓄積や知識の引き出しも多様です。ぜひ活用して下さい。

金井 紀光 Norimitsu Kanai

1950年生まれ。広島市出身。主な写真展「非電化暮らし」「8.6」「この町で」「止まったままの時計-フクシマ10年」(共同制作)。2008年、2011年、2020年(共同制作)視点賞受賞。JRP60年現研50年記念写真展委員長。2025年視点展委員長。



冷たい石畳に座り込んで、母国の軍事クーデターに抗議する在留ミャンマー人（2021年2月、渋谷・国連大学）

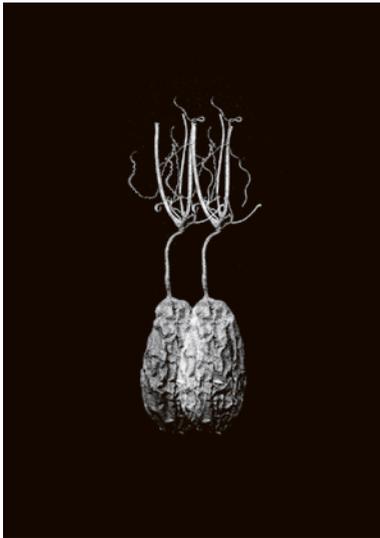
曇りのない目で

大切なこととして、写真に撮ろうとするわけですが、納得の一枚が撮れることはなかなかありません。何度も見なおしては、無理くり選び出すことの方が多いかもかもしれません。サン＝テグジュペリは「星の王子さま」で、「肝心なことは目に見えない」とキツネに語りますが、何が起きてもおかしくない混沌とした時代だからこそ、曇りのない目でしっかりと生きていきたいものです。

五味 明憲 Akinori Gomi

岐阜市出身。岡山大学哲学科、日刊新聞の写真記者を経てフリー。JPS 会員、JRP 会員。全国公募写真展「視点」視点奨励賞2回。ドキュメンタリー、人物ポートレート、演奏会。銀塩写真工房BARYTA 代表

土曜ゼミ 第1・3土曜 14:00～16:30



カラスウリ

庭で見つけた時、カラカラに乾燥して別の植物のようだった。さらに神さまのイタズラで、フィルム巻き上げが故障。いい具合に多重露出になった。予定通りにならない。だから銀塩は奥が深い。

モノクロワークショップ

写真は日々の記録であると思う

私は遠いところへ「わざわざテーマを探しに行く」ことをあまりしない。それは当たり前。日常の中に「珍しいもの」を見つけた方が好きだからだ。いつもの駅、見慣れた風景、同じ道をブラブラしながら何となく写真を撮る。いつも同じ道を歩いていると、むしろいつもと違うものを発見する。人と出会い、犬とすれ違い、いつも同じ場所で日向ぼっこするネコは今日いない。風や光は変化し、日々季節は移ろい、そしてときどき「神さまのイタズラ」がある。それを逃さず捕まえるのが「私の写真」だと思う。

鈴木 知之 Tomoyuki Suzuki

1963年東京生まれ。明治大学工学部建築学科卒業、東京都立大学工学部工学研究科修士課程修了（建築史）山本理頭設計工場勤務後、写真家に転向。以降、建築・都市風景、植物などをテーマに制作活動。



calm

宮本ゼミ 第2・4土曜 10:00～12:30
基礎科 第1・3木曜 14:00～16:30
オンラインワークショップ写真講座（初級）第2・4木曜 18:30～20:30
オンラインワークショップ写真講座（研究科）

楽しく写真を撮って 自分らしく歩いていこう

どんなことでも、始めて継続してみると、それが自分の一部となり、人生が豊かになると私は思います。それが写真であるかもしれませんが、人によっては違うものかもしれません。でも、写真で迷ったら、まずは始めてもらえたら嬉しいです。

宮本 遼 Ryo Miyamoto

昭和音楽大学卒業。個展開催、写真賞など多数。写真から『音』が聞こえてくる作品を作り続けている。



クリスマス間近のウィーン街景

写真の力

写真で構成されたスライドショーのフォトドキュメンタリーを見て、動画のドキュメンタリーよりも強く心を動かされました。写真の使い方や見せ方によっては、動画よりも写真の方がはるかに力を持つことがあると思います。写真から動画の時代に移りつつあると言われていますが、写真の持つ本来の力を共に追求していきましょう。

宮本 壽男 Toshio Miyamoto

1951年静岡県生まれ。早稲田大学理工学部卒。
2017年・2019年・2020年・2021年 視点「優秀賞」
受賞 2018年「視点・奨励賞」受賞 2020年「視点賞」
受賞 共同制作作品 2024年「視点賞」受賞



ふるさと 睡蓮田

山本やす子写真教室 第3金曜 14:00～16:30

写真は記録

目の前にあった物が事もなげに姿を消し、あたかも前からあったようにそこに存在する。その変化の速さには驚くばかりの時代になった。それは都会ばかりでは無い。私のふる里もしかりである。自然までも形を変えている。道は整備が行き届き砂利道一つなく長靴の必要性も影が薄くなった。変わる時代だからこそしっかり今を写しておきたい。人に、生活に、自然に、記録として残す事を心にこめながら。

山本 やす子 Yasuko Yamamoto

山形県出身 東京都練馬区在住
日本リアリズム写真集団会員・2003年「出羽の国の大庄屋・柏倉九左工門家」2016年「ひなのみち」芸術新聞社「桜源郷しらたか」2018年「出羽あるき」やまがたの古事をつなぐシリーズ。
現代写真研究所出版局

基礎科 第1・3木曜 14:00～16:30
オンラインワークショップ写真講座（初級）第2・4木曜 18:30～20:30
オンラインワークショップ写真講座（研究科）

講師・現研生の旺盛な写真展・写真集の発表活動

現研の授業では「撮る」「選ぶ」「プリント」「発表」の一貫性を大切にしています。一生懸命に撮影し、頑張って画像調整して写真作品を完成させても、パソコンに閉じ込めたままでは、宝の持ち腐れです。自分の感性や発見が詰まった作品を発表することで、写真創作は完成します。



古屋行男写真集「雲南面影」



高橋美保写真集
「MINDSCAPE in the woods」



増田康雄写真集
「多摩の戦争遺跡」



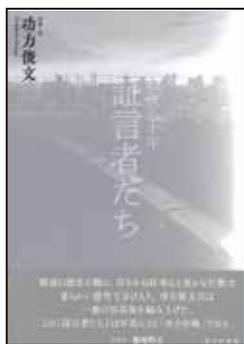
上田幸孝写真集「東京変貌 1994-2019」



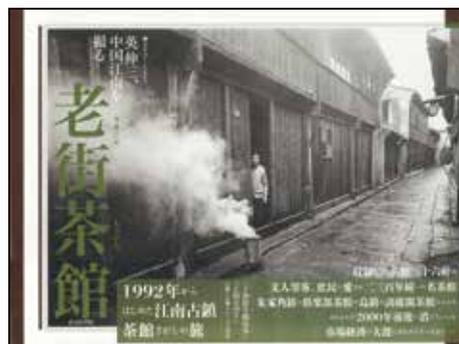
平川正枝写真集「華神」



志摩悦子写真集
「上州 絹の風一刻を越えて」



功力俊文写真集
「戦後80年 証言者たち」



英伸三写真集「老街茶館」



中村梧郎
「記者狙撃
ベトナム戦争とウクライナ」

2020年以降、現研の講師や生徒たちによる作品発表は、個展は約55回、写真集25冊、旺盛な創作活動が行われています。各ゼミでは個展や写真集制作を視野に入れた授業を行っています。

学内に設立した「現研出版局」は、写真集発行の相談やサポートを行っています。



現研生・講師の各方面の写真受賞歴（2020年以降）

- JPS 展 ヤングアイ 2023年 会長賞／飯塚ゼミ（平川正枝・高橋侑也）
2024年 奨励賞／尾辻ゼミ（生田一美・原田敏朗）
- JRP 全国公募写真展 2020年 視点賞 金井ゼミ（6人の眼）共同制作
2022年 奨励賞 三木知子・2023年 奨励賞 山本やす子・2024年 視点賞 宮本 壽男 他受賞多数
- JRP 伊藤知巳写真賞 2020年 第1回／宮本遼
2022年 第2回／なかにしみづほ／奨励賞 三木知子・久保村厚

①大きなプリント展示ができます

大判のプリントが教室内で出力できます。
大型プリンター A1ノビサイズ(594mm×941mm)、
中型プリンター(はがきサイズ～A2)まで自由に
使用できます。ご利用の際は、使い方のサポ
ートを行っています。

(使用料別途有料 / 一般レンタルも可能です)



A1ノビの大型プリンター完備



写真展を目指して入念なプリントチェック

②写真展に必要な額が揃います

額のレンタルを行っています。
大きさは、A4サイズ～A2サイズまで。
大きなテーブルで展示構成を考え、出力したプリントを額
にいれて準備します。



ゼミ生同士がお互いに助け合いながら写真展準備

- PC (win) 5台
Adobe
Photoshop/Lightroom 搭載
- プリンター機材 /
EPSON 3台
- モニター /
EIZO ナナオ採用
- ネガスキャナー
NIKON (35mm) 2台
- フラットベッドスキャナー 1台

一般の方もご予約にて使用が可能です。
事務局までお気軽にお問合せ下さい。

③テーマ探しは仲間と共に



毎年1月成人式の日、全校新春撮影会
を行います。また、年に2回行う学内コ
ンテストやクラス別の撮影合宿等の行事
参加で写真の腕を磨きます。



2020年から現研交流誌として
「PhotoSpace」を発行しています。
現研生の作品発表の場として号を重
ねています。

年に2回(2月・9月)に学内コンテストを行っ
ています。入賞作品はX、YouTube、Instagram
にSNS配信しています。

④写真集を読み解く、楽しむ豊かな時間



貴重な名作写真集を取り揃えた
図書コーナーは授業時間以外い
つでも閲覧可能。



講師を中心に写真家の撮影意図を探る

2026年度 授業料一覧

クラス(2026年6月～2027年5月)	選考料	入学金	授業料	合計(税込)
基礎科(6月～1年/月2回)		¥11,000	¥157,300	¥168,300
総合科(6月～1年/月2回)		¥11,000	¥157,300	¥168,300
日曜撮影専科(6月～11月・12月～6カ月/月2回)		¥11,000	¥88,000	¥99,000
フォトジャーナリズム専科(6月～1年/月1回)		¥5,500	¥88,000	¥93,500
土曜ゼミ(6月～1年/月2回)		¥11,000	¥143,000	¥153,000
ゼミ【英・入江・足立】(6月～1年/月1回)	¥5,500	¥11,000	¥88,000	¥99,000
ゼミ【尾辻・飯塚・金井・宮本】(6月～1年/月2回)	¥5,500	¥11,000	¥143,000	¥154,000
山本やす子写真教室(6月～6カ月/月1回)		¥11,000	¥44,000	¥55,000
デジタル基礎講座 全8回			¥61,600	¥61,600
Lightroom専科 全8回			¥61,600	¥61,600
デジタル研究科(6月～1年/月1回)			¥88,000	¥88,000
オンラインワークショップ写真講座(初級・全10回)			¥44,000	¥44,000
オンラインワークショップ写真講座(研究科・全12回)			¥52,800	¥52,800

◇各クラスの開講日程は、事務局へお問合せ下さい。

◇各クラスが開催する合宿や修了展にかかる費用は上記授業料には含まれません。

◇基礎科・総合科・デジタル基礎講座・土曜ゼミ・日曜撮影専科・フォトジャーナリズム専科

山本やす子写真教室・オンラインワークショップは選考はありません。

◇原則として、基礎科・総合科は授業は月2回ですが、実習等集中的に授業を行うことがあります。

◇申込方法◇

入学申込書を提出してください。当校ホームページ申込からも可能です。

各ゼミを受講希望の方は、申込書と一緒に作品(A4プリント10～30枚)と選考料を提出してください。

◇各クラスの授業料は、都合により変更になる場合がございます。

◆特典◆ 基礎科は30歳未満に限り、授業料を半額とします。

◇お支払い方法◇

お申込みのクラスの受講料をご確認の上、下記の下記口座へお振込をお願いします。

■三菱UFJ銀行 四谷支店(普通) 4660049 現代写真研究所 カ) ゲンダイシャシンケンキュージョ

■みずほ銀行 四谷支店(普通) 1168372 現代写真研究所 カ) ゲンダイシャシンケンキュージョ

■ゆうちょ銀行 00110-7-546814 現代写真研究所事務局

(振込手数料は各自ご負担下さい。)

*分割納入も承ります。事務局までご相談ください。

*お支払いいただいた入学金・授業料は開講が中止になる以外いかなる理由があっても返金はできません。

現研での活動、講座の動画、写真展、
写真集の紹介等を配信しています。
SNSで配信中!



HOME PAGE



INSTAGRAM



YouTube



X(旧 TWITTER)

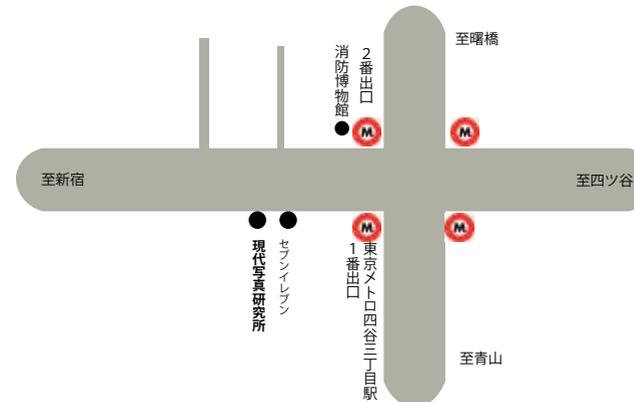
希望のクラスに○をしてください

<input type="checkbox"/> 基礎科	<input type="checkbox"/> 英伸三ゼミ
<input type="checkbox"/> 総合科	<input type="checkbox"/> 尾辻弥寿雄ゼミ
<input type="checkbox"/> 山本やす子写真教室	<input type="checkbox"/> 入江進ゼミ
<input type="checkbox"/> 日曜撮影専科	<input type="checkbox"/> 飯塚明夫ゼミ
<input type="checkbox"/> フォトジャーナリズム専科	<input type="checkbox"/> 金井紀光ゼミ
<input type="checkbox"/> 土曜ゼミ	<input type="checkbox"/> 足立君江ゼミ
<input type="checkbox"/> デジタル基礎講座	<input type="checkbox"/> 宮本遼ゼミ
<input type="checkbox"/> Lightroom専科(デジタル基礎修了者)	<input type="checkbox"/> デジタル研究科(1.2.3.4)
<input type="checkbox"/> オンラインワークショップ(初級)(研究科)	

【氏名(フリガナ)】	生年月日
	西暦 年 月 日
【住所】	
【TEL・FAX】	
【mobile・email】	
写真歴(簡単に)	
学費は()円を 月 日に 振込(済・予定)です。 2026年 月 日	
現代写真研究所御中	

個人情報保護法にのっとり、お預かりした情報は、適切な管理をいたします。

上記申込書に記載の上、下記住所までお送りください。



JRP 附属写真学校
現代写真研究所

東京メトロ丸の内線
四谷三丁目駅下車徒歩1分
〒160-0004
東京都新宿区四谷3-12 沢登ビル6F

03-3359-7611 (TEL)
03-3355-1462 (FAX)

jimukyoku@genken.ac

https://www.genken.ac/

写真もあなたの言葉です

現代写真研究所（通称現研）は、1974年創立以来「写真もあなたの言葉です」のキャッチフレーズを柱に、多くの学生が写真を学び、個展や写真集などで作品を発表して、写真作品による社会的発言を展開しています。写真の技術と理論を学ぶことで、一人一人が抱えている表現に対する意識と、物事への関心度を高めて、それを実際の撮影行動につなげていく自分の好きなものを、気になるものを見つけ、その撮影に集中していくと、表現に変化が生まれ、なにを伝えたいかという写真の中心課題が次第に明確になってきます。現研の講師は、その手助けとなる授業をいたします。現研で学ぶことにより、言葉で話すように、また、言葉では語れない、写真独自の映像言語を確立して、さらに進んだ映像世界をひらいていただきたいと思います。

英伸三



photo 赤塚 ほしよ



photo 青柳 和男